

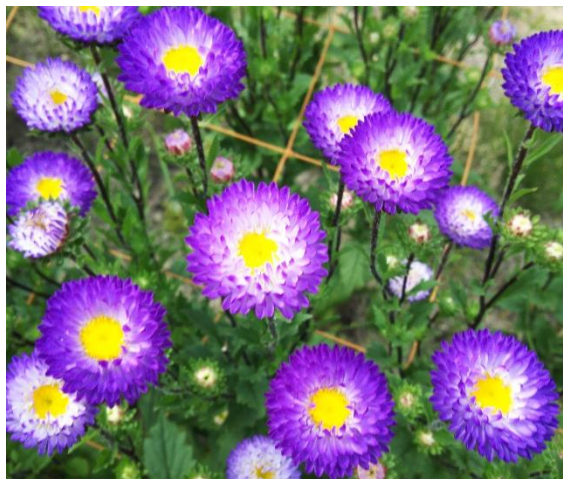
花きの栽培技術

アスターの切り花栽培

アスターは中国北部原産のキク科植物です。冷涼な気候を好むため、本県では中山間地域での栽培に適しています。花の色は赤・紫・桃・白など豊富であり、一重咲きや八重咲きがあります。施設栽培では電照を行うことによって一年中生産することができますが、ここでは、8月のお盆を中心とした露地栽培について紹介します。

1 品種

8月咲き露地栽培は、梅雨の長雨や夏の高温時期に生育するため、病害虫、特に立ち枯れ病に強い品種を栽培することが重要です。また、早生品種は草丈が短く、7月下旬に咲いてしまうため、お盆開花に適した品種を選定します。本県では松本シリーズ、くれないシリーズ、あずみシリーズなどが栽培されています。



紫色品種の開花

8月出荷の作業

4月	5月	6月	7月	8月
○	△			□
播種	定植	↑ 追肥		切り花

2 苗づくり

セル育苗は発芽時の水分管理が難しいので、育苗箱で苗づくりをする方が簡単です。水はけが悪いと発芽不良になることがあるので、排水性の良い用土を用いることが大切です。一般的な育苗箱に3mlの種をまくと、350～400本の苗ができます。

本県の場合、播種適期は4月10日頃です。播種時期が早いとお盆までに開花してしまったり、遅すぎると草丈が短くなったりします。播種後はトンネル内で15～25℃を目安に管理すると、約1週間で発芽してきます。

播種後5週間、本葉が4枚程度になった頃が定植適期です。本葉の少ない小さい苗を定植すると定植後に枯死するところがあります。また、老化苗の場合は草丈の伸長が劣ることがあります。

定植前1週間はトンネルから出して外気に慣らすことが大切です。外気に慣らすことによって、定植後の植痛みが大幅に軽減されます。

3 圃場準備・定植

①圃場準備

アスターは過湿に弱いため、排水性の良い圃場に定植します。石灰資材を施用して、土壌pHを6.0～6.5に調整します。基肥は緩効性の肥料を用い、10a当たり窒素成分量で10kg程度施用します。畝幅は6条植えの場合、畝上面で90cm、4条植えの場合は70cm程度とします。畝立て後、フラワーネットを1段張っておきます。

施肥例/10a(N:P:K=8:8:8の肥料で試算)

区分	時期	有機配合肥料
基肥	畝立て前	120kg
追肥	定植20日後	80kg

②定植

植痛みしないように丁寧に定植します。定植後は灌水を行った後、活着するまで1週間程度は寒冷紗で被覆します。株間は6条植えの場合、12cmネットの中央1目を空けて6条植えにすると良いでしょう。15cmネットでは風によって茎が曲がりやすくなるので注意が必要です。

4 栽培管理

定植後20日ごろ、株間に追肥を施用します。また、畝の上面にバークや切り藁を敷くと土壌の乾燥防止と雑草防除になります。6月頃は雑草の生育が早い時期なので、早めに草引きを行うように注意します。7月中旬になると

草丈が長くなってくるので、2～2m間隔に支柱をたて、茎が曲がらないようにフラワーネットを固定します。

5 病虫害防除

病気ではフザリウムが原因の立ち枯れ病が問題となります。茎葉が伸長した後に枯れることが多く、連作圃場では多発することがあります。薬では防除できないので、輪作するようにします。

害虫では定植後に株を食害するヨトウムシ、茎葉が大きくなってから発生するシンクイムシ等があります。プレオフロアブルやアフーム乳剤などで早期防除を心掛けてください。

6 切り花・出荷

1～2輪開花時に切り花をしますが、咲きすぎにならないように注意します。雨の後、茎葉が濡れた状態で箱につめると出荷後に葉が蒸れてしまうので、注意します。しっかりと選別を行い、高品質な切り花出荷に努めてください。

(JAグループ和歌山農業振興センター)



